

防火と救急 水難事故から子どもたちを守ろう

まだまだ残暑の厳しい季節、涼を求める人も多いのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの影響で学校や公共施設などの安全な環境で水遊びができるプールが閉鎖されて

いることもあり、海や川（用水路）、家庭用ビニールプールで遊ぶ機会が多くなっています。

しかし、それに比例して、水にまつわる事故も多発しています。

子どもは静かに溺れる

乳幼児の不慮の事故で2番目に多いのは『溺水』です。

子どもが溺れるとき、大きな音でバチャバチャともがいて「助けてー!」と叫ぶ、そんなイメージはありませんか？ それはテレビや映画の中の世界。実際は溺れた状況を理解できず、もしくは呼吸をしようとするのが精いっぱい、声を出す余裕もなく静かに沈みます（これを本能的溺水反応といいます）。



子どもが犠牲となった事故事例

【ケース1：用水路】

山間のきれいな水が流れる幅40cmの用水路。水深10cm程度の深さだったが、子ども自身がせきとなり水かさが増し、水圧が大きくなり流された。携帯電話の操作に夢中になっていた親が気付いた時には、いなくなっていた。

【ケース2：家庭用ビニールプール】

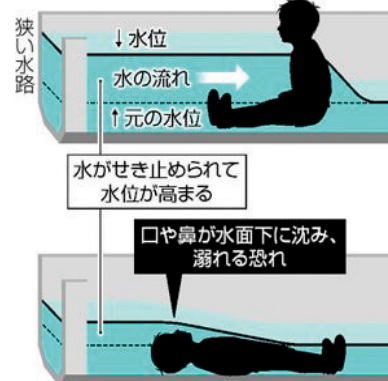
日よけとプライバシー保護の観点から、シートで仕切られたプライベート空間で水遊びをしていた親子。親が少しの時間だから大丈夫だろうと思い、トイレに行って戻ってみると子どもが意識不明の状態になっていた。近所に人はいたものの、声を聞いたりせず誰も気づかなかった。

【ケース3：お風呂】

実は意外と多い、母親と幼児が一緒にお風呂に入っているときに起きるケース。身体が温まり眠くなるのが原因なのかは不明ですが、母親が髪を洗っている間に音もなく風呂に沈んでいた。

狭い水路で水難事故につながるケース(イメージ)

押し流す力が強まり、下流に流される恐れ



【令和3年町内の火災等発生状況】

発生区分	7月中	累計
建物	0	3
車両	0	0
林野	0	0
その他	0	1
警戒出動	1	11
救急出動	138	815
救助出動	1	9

問 益城西原消防署 ☎ 286-2119

保護者の方へ

海や川(用水路)、家庭用ビニールプールで遊ぶときは、子どもから目を離さないでください。目の届く範囲にいるからと安心してスマホに夢中になったり、お酒を飲んで寝てしまったりすると、溺れていても気付きません。お風呂で髪を洗うときは、声掛けをするなどして、子どもの生を感じ、寄り添うことで事故を防ぐことができます。

